

コード No. 18163

**Anti-Human
FHIT (F130) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

-
- はじめに : *FHIT* は、Fragile site(染色体脆弱部位)FRA3B を含む 3p14.2 よりクローニングされました。3p14.2 は、FRA3B を含むだけでなく、様々な腫瘍で欠失、再構成、対立遺伝子損失などが報告されていることから、*FHIT* はがん抑制遺伝子候補と考えられています。*FHIT* 遺伝子産物は、密接した 3 塩基のヒスチジンを特徴とする HIT モチーフ(Histidine Triad : H x H x H)を持つ 147 アミノ酸からなるタンパク質です。各種の疾患、生理活性作用等の研究に広く利用できます。
- 免疫抗原 : *FHIT* の C 端部分合成ペプチド
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定
: 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 0.625*1~5*2 µg/mL にて使用可能
(ホルマリン固定・パラフィン切片 : マイクロウェーブ処理)
*1 : DAB 緩衝液に 50mM 酢酸アンモニウム-クエン酸 Buffer を使用
*2 : DAB 緩衝液に 50mM Tris Buffer を使用
: ウェスタン・ブロッティング 5 µg/mL にて使用可能
- 特異性 : 各種ヒト細胞株、末梢血リンパ球などに対するウェスタンブロッティング法、および各種ヒト正常組織に対する免疫組織染色法によって確認
- 参考文献 : 1. Tomizawa Y, Nakajima T, Kohno T, Saito R, Yamaguchi N, and Yokota J. Clinicopathological significance of Fhit protein expression in stage I non-small cell lung carcinoma. *Cancer Res.* 1998; 58 (23), 5478-5483.